

科目コード	授業科目名	単位数・学期	受講年次	授業区分	担当教員名
90228	比較美学研究 A (奇数年度開講)	2 単位 後期	1・2	講義	喜屋武 盛也

■テーマ Form (形式) の理念史

■授業の概要

形式 (form) という言葉は学術においてだけではなく社会の様々な場面でも登場するが、芸術を語るうえでも再頻出の言葉のひとつと言ってもよいであろう。しかし、この語の意味するものがあまりに広範に及ぶため、明確に捉えることは困難である。対応する英語 Form を見ても明らかなように、眼前に展開される具体的な「かたち」と結びつくと同時に、極めて抽象的なものを言い当てようとする。本講義は、形式およびそれと深くかかわる言葉の概念史をたどることで、芸術思想の理解の一助とするものである。

■到達目標

- ・形式という語について西洋思想史という観点から理解し、説明することができる。

■授業計画・方法

1. ガイダンス/形式という語について
2. 形式の歴史を語る困難性
3. 古代の形式理論 1 詩と絵画
4. 古代の形式理論 2 モルフェ、エイドス
5. 古代の形式理論 3 エンテレケイア
6. 中世・ルネサンスの形式理論 1 実体形式と美
7. 中世・ルネサンスの形式理論 2 ディセーニョ
8. 中世・ルネサンスの形式理論 3 素描と色彩
9. 近代の形式理論 1 感覚と概念：モリヌクス問題を発端に
10. 近代の形式理論 2 形式と内容
11. 近代の形式理論 3 モルフォロギア
12. 形式主義の系譜
13. 構造主義とフォルマリズム
14. 「象徴形式」再考
15. 回顧と展望
定期試験は実施しない。

■履修上の留意点 (授業以外の学習方法を含む)

- ・テーマに即した内容について、参考文献等を読んで、認識や思索を積み重ねておくこと。

■成績評価の方法・基準

□方法 レポートを課す (100%)

□基準 到達目標を観点として、履修規程に定める「授業科目の成績評価基準」に則り評価する。

芸術文化学研究科 (博士課程) の学生には、専門家としての独創的かつ学術的な達成を求める。

■教科書・参考文献 (資料) 等

□教科書

□テキスト

□参考文献

- ・タタルキェヴィッチ「形式 (美学史における)」荒川幾男ほか日本語版編集『西洋思想大辞典』平凡社、1990 (開架参考 130/Se19/1-5)
- ・加藤尚武『「かたち」の哲学』岩波現代文庫
- ・シモンドン『個体化の哲学』法政大学出版局